

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	本科の社会科学関連科目
教科書	使用しない
補助教材等	参考資料として、毎回プリントを配布する。
学習上の留意点	
<p>本講義はⅢ部構成になっており、Ⅰ部とⅡ部はレポートによって評価し、Ⅲ部は期末試験を行う。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>本講義は、人間性豊かな技術者を育成するために、「地球的視点から物事を考える能力を育成すること」を目標として開設されたものである。専任教員3名で打ち合わせを行いながら、幅広い多様な視点から講義を展開したいと思う。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	導入	シラバスの意図するところが概ね理解できる。 安藤昌益の唯物論が理解できる。	
2	安藤昌益の思想	食と性を中心に据えた安藤昌益の「自然真営道」について、その基本的な枠組みが理解できる。	配付資料を事前に読んでおく。
3	安藤昌益の思想	食と性を中心に据えた安藤昌益の「自然真営道」について、その基本的な枠組みが理解できる。	配付資料を事前に読んでおく。
4	中流崩壊論争	中流崩壊論争を、安藤昌益の思想と関連させて考えることができる。	配付資料を事前に読んでおく。
5	ポスト大衆社会論	今日的な世相の中で、自分の生き方のポリシーを具体的に述べることができる。	レポートを作成する。
6	環境と法一民法（1）	四大公害病に代表される、日本の公害の歴史と、これらの公害から生じた損害に対する民事訴訟の問題点を理解できる。	配付資料を事前に読んでおく。
7	環境と法一民法（2）	日本国内で、四大公害事件を背景にして整備された各種の公害対策法の特徴と、法整備後に民事訴訟がどのように変化したかを把握できる。	配付資料を事前に読んでおく。
8	環境と法一刑法	日本では公害事件が刑事訴訟にまで発展した事案は少数であることと、その理由が理解できる。	配付資料を事前に読んでおく。
9	日本国憲法における新しい人権	日本国憲法における「新しい人権」として、「環境権」が主張されていることが理解できる。	配付資料を事前に読んでおく。
10	環境整備に関する法整備の国際状況	国境を越えた環境汚染問題や、国連をはじめとする世界各国の環境問題への取組の概要が理解できる。	レポートを作成する。
11	歴史的視点から環境と社会の関わりを考える（1）	シラバスの内容を説明できる。1万年以前の古い時代を研究することにどんな意味があるのか、説明できる。	配布資料を準備する。
12	歴史的視点から環境と社会の関わりを考える（2）	地球環境の変化と前近代の日本社会との関わりについて説明できる。	配付資料を事前に読んでおく。
13	歴史的視点から環境と社会の関わりを考える（3）	産業革命以降の工業化の中で、環境と社会がどのように変化したか、説明できる。	配付資料を事前に読んでおく。
14	歴史的視点から環境と社会の関わりを考える（4）	20世紀後半以降の日本で環境と社会の関わりを考える時、どのような課題があるのか説明できる。	配付資料を事前に読んでおく。
後期末試験			
15	・試験返却と解答 ・アンケートの実施		
総学習時間数			90 時間
講義			30 時間
自学自習			60 時間